

## 競技規則・第4部 混成競技

### TR 39. 混成競技

#### 男子：一般・U20およびU18（五種競技・十種競技）

- 39.1 五種競技は5種目からなり、1日ずつの順序で行う。  
走幅跳、やり投、200 m、円盤投、1,500 m
- 39.2 男子の十種競技は10種目からなり、連続する48時間以内でつぎの順序で行う。  
第1日 100 m、走幅跳、砲丸投、走高跳、400 m  
第2日 110 mハードル、円盤投、棒高跳、やり投、1,500 m

#### 女子：一般及およびU20（七種競技・十種競技）

- 39.3 七種競技は7種目からなり、連続する48時間以内でつぎの順序で行う。  
第1日 100 mハードル、走高跳、砲丸投、200 m  
第2日 走幅跳、やり投、800 m
- 39.4 女子の十種競技は10種目からなり、連続する48時間以内でTR39.2に定められた順序、またはつぎの順序で行う。  
第1日 100 m、円盤投、棒高跳、やり投、400 m  
第2日 100 mハードル、走幅跳、砲丸投、走高跳、1,500 m

#### 女子U18（七種競技のみ）

- 39.5 U18の女子七種競技は7種目からなり、連続する48時間以内でつぎの順序で行う。  
第1日 100 mハードル、走高跳、砲丸投、200 m  
第2日 走幅跳、やり投、800 m

### 総 則

- 39.6 混成競技審判長の裁量で、一つの種目の終了時からつぎの種目の開始時まで間に、可能な時はいつでもすべての競技者が最小限30分の時間をとれるようにしなければならない。できれば1日目の最終種目終了時刻と2日目の最初の種目の開始時刻との間は、少なくとも10時間の間隔をあけるようにする。

最短30分とは、前の種目で最後のレースまたは試技が終了してから次の種目の最初のレースまたは試技の開始までの実際の時間として計算される。したがって、競技者が1つの種目の終了から次の種目のウォーミングアップに直接行くことが可能であり珍しいことではない。そのため30分には、1つの競技場所から別の競技場所への移動およびウォーミングアップの時間が実質的含まれている。

特別なケース（例外的な気象条件など）を除いて、混成競技が実施される日数の変更は許可されない。そのような変更の決定は、各事案の特定の状況ごとに、技術代表およびまたは審判長が判断する。しかし、何らかの理由により、競技が TR39または53に従うよりも長い期間で開催された場合、混成競技（合計点数）の記録は公認されない。

39.7 混成競技のそれぞれの種目においては、最終種目を例外として、組合せは主催者または混成競技審判長が前もって決定された期間中にそれぞれの個別種目で達成した成績が同程度の競技者が同じ組または同じグループになるように決めることが望ましい。各組または各グループは5人以上の競技者が望ましく、3人未満にしないようにする。この組合せが競技種目のタイムテーブルのために首尾よく成し遂げられない場合には、次の種目の組合せは競技者が前の種目が終了した時点で決めるべきである。

混成競技の最終種目における組合せは最終組に、それまでの得点合計上位者が含まれるように編成すべきである。

主催者または混成競技審判長は必要と思う時は組の再編成をする権限を有する。

〔国内〕

最終種目を例外として、各種目の組合せ（組またはグループの編成）は主催者が競技者の成績で決め、プログラムに記載することを原則とする。〔参照 TR25.5〕

〔国際〕

最終種目を例外として、各種目の組合せ（組またはグループ）は技術代表または混成競技審判長が決める。

39.8 各種目については次の特例を除いて本競技規則を適用する。

- 39.8.1 走幅跳と投てきの各種目では各競技者は3回だけの試技が許される。
- 39.8.2 写真判定装置が利用できない場合は、各競技者の時間は3人の計時員が独立して計時する。
- 39.8.3 トラック種目においては1レースで一度目は不正スタートの責任がある競技者が失格することはなく許される。そのレースで2度目以降の不正スタートの責任がある競技者はスターターにより失格させられる。

[参照 TR16.9]

39.8.4 [国際] 混成競技のバーの上げ方は競技会全体を通じて一律に走高跳で3cm、棒高跳で10cmとしなければならない。

39.8.5 混成競技での最終種目のスタートの並び順やレーン順は、技術代表または混成審判長が望ましいと判断したとおりに決めることができる。それ以外の種目の試技順やレーン順は抽選により決める。

39.9 トラック種目の計時は種目ごとに、ただ一つの計時方法を適用する。しかし、世界記録申請のためには写真判定システムを使用しなければならない。

TR19.1.1および19.1.2に規定されている2つの計時システムがこの目的のために認識されている。

例えば、写真判定の誤作動があり、いくつかの組には使用できたもののすべてではない場合、2つのシステム、手動と写真判定のポイントスコアを直接比較することは不可能である。

TR39.9の下では、競技会における単独種目ごとに1つの計時システムのみが適用されるとあるので、すべての競技者は手動計時用のポイントテーブルを使用して手動時間に基づいてポイントを決定する。

他の種目では、すべての競技者が写真判定で計時できた場合、その種目では、写真判定用のテーブルを使用することができる。

39.10 いかなる競技者も、混成競技において1種目でもスタートしなかったか、また1回も試技をしなかった時は、それ以降の

種目に参加することは許されず競技を棄権したものとみなされる。従って、その競技者は最終順位には加えられない。混成競技から棄権しようとする競技者は、ただちに混成競技審判長に申し出なければならない。

- 39.11 現行の混成競技採点表による得点は各種目の得点とそれまでの合計得点を各種目の終了後、競技者に発表しなければならない。競技者は獲得した総得点によって順位を付けるものとする。

若い年齢層での競技では、障害物や投てき物の高さや重さといった仕様が異なっても、同じスコアリングテーブルが各種目に使用される。トラック種目またはフィールド種目のいずれの記録のスコアも、該当する表に記載されている。多くの場合、すべての時間または距離が表に掲載されているわけではない。このような場合は、近接する低い記録のスコアを使用する必要がある。

例：女性のやり投の場合、45.82m の距離でポイントスコアは表示されていない。

表に記載されている近距離は45.78m で、779 ポイントとなる。

- 39.12 ガンダーセン方式（または類似の方式）を用いて混成競技の最終種目のスタートを行う場合には、それに合わせて適用する競技規則を特別に設けなければならない。

〔注釈〕

ガンダーセン方式：得点差に応じて時差スタートさせる方式。

### 同得点

- 39.13 競技会でどの順位についても二人以上の競技者が同じ得点をとった場合は同成績とする。

### 〔国内〕

#### 高等学校および中学校の正式の競技会における混成競技

（高等学校）

1. 男子は八種競技、女子は七種競技とする。

2. 男子の八種競技は8種目からなり、連続する2日間で次の順序で行うこととし、TR39.6以下の規定を準用する。

第1日 100 m、走幅跳、砲丸投(6kg)、400 m

第2日 110 mハードル、やり投、走高跳、1,500 m

3. 女子の七種競技は、TR39の規定に基づいて行う。

4. 各種目の得点は混成競技採点表による。

(中学校)

1. 男子、女子とも四種競技とする。
2. 四種競技は4種目からなり、次の種目と順序で1日あるいは2日で行うこととし、TR39.6以下の規定を適用または準用する。

男子 110 mハードル、砲丸投(4kg※)、走高跳、400 m

(※単独種目の砲丸重量とは異なる)

女子 100 mハードル、走高跳、砲丸投(2kg721)、200 m

3. 各種目の得点は混成競技採点表による。